フォルム NO.326 Since 1956
日文教育資料［図画工作・美術］

形 forme

特集

中学校

『美術資料』が新しくなりました。

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の教科書情報
詳しくはWebへ!
日文 検索

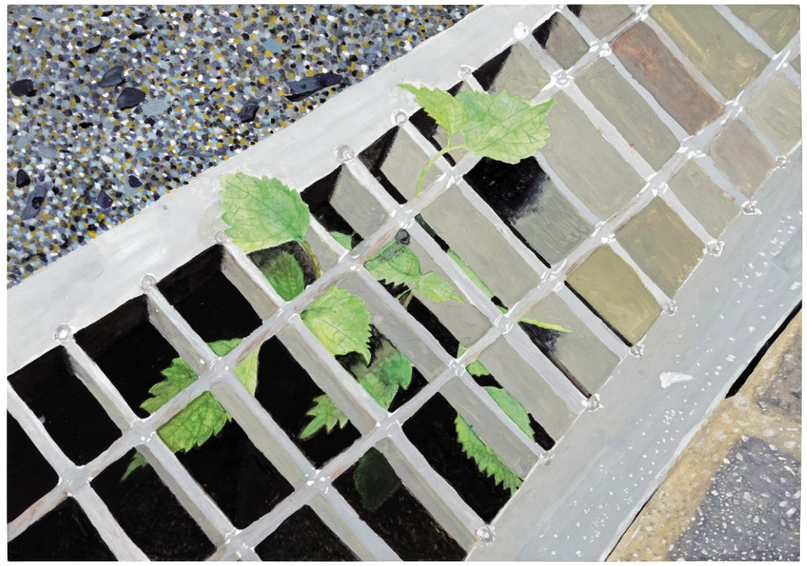
この冊子は、令和３年（2021年）度版 中学校美術科内容解説資料として扱われます。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは，株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

生徒作品解説 私の見方

文：青森県弘前市立第一中学校 教諭 髙橋（たかはし） 憲司（けんじ）



新しい世界へ［アクリル・紙／38×54cm］
令和3年（2021）度版 中学校美術科教科書 美術1 p.16掲載

作品から感じるのは、この題材に出会わなければ見付けることができなかった情景、生命力の美しさなのではないでしょうか。

真っ暗な側溝の中に人知れず根を張り、そこから逞しく茎や葉を伸ばしながら成長を続け、ようやく陽の光を浴びた鮮やかな緑の葉には、喜びの表情すら感じます。この絵の作者もきっと同じことを感じ、その様を表現しようと主題を立てたのではないかと想像できます。

この作品を見ていると、普段は何気なく視界に入っていても、気にも留めることがなかった景色の中に、美しさが隠れていること。つまりは、造形的な視点をもって景色を見てみることの意義や、大切さを再認識します。側溝の中がしっかりと見えるようにこの場所を見るのではなく、見る角度を工夫して、真っ暗な場所から植物が伸びてきているように見て描いている点が素敵だなと感じました。

また「新しい世界へ」という題名にも感心します。主題を感じさせますし、いつかこの植物が花を咲かせ、種を蒔き、更に命を増やしていく物語まで想像させます。

主題や題名まで含めて一つの作品として完結させるような、指導の大切さも痛感しました。

あなたはどう思いますか？

形 forme No.326-2022

日文教育資料［図画工作・美術］
令和4年（2022年）2月24日発行
編集・発行人 佐々木秀樹
発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33580

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/
大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5 TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16 TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14 TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1 TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

現場に寄り　添う

Standard ＆ Update

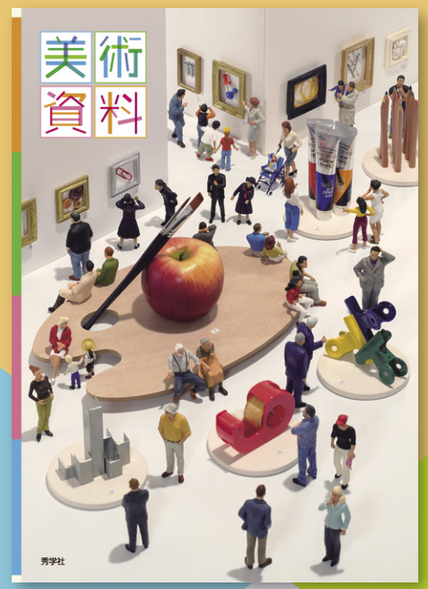
中学校

『美術 資料』が新しくなりました。

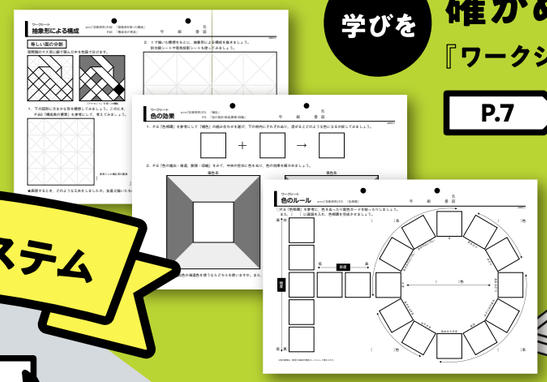
学びを 広げる
『美術資料』
P.4・5

NEW

学びを 深める
『デジタル教材』
P.6



学びを 確かめる
『ワークシート教材』
P.7



教科書を支える学びのシステム

この直感的な使い心地
ぜひ体感してください！

ナビゲーター
横田 学先生

1980年より京都府立学校教諭，京都府教育庁指導部学校教育課指導主事を経て京都市立芸術大学美術学部教授，2020年より名誉教授。第8期中央教育審議会専門委員（芸術ワーキンググループ）。

教科書とともに歩み、中学校を中心に美術教育を支えてきた副読本『美術資料』が新しくなりました。長年使い続けられた「スタンダード」の良さと現場の声を取り入れた「新しさ」が共存する美術資料集の決定版です。教科書の学びを広げ、深め、確かめる、そのリニューアルポイントを、編集に携わった私、横田がナビゲートいたします！

『美術資料』の表紙ができるまで

メイキング動画は
こちら

身近にあるものをまったく別のものに見立てて表現する、ミニチュア写真家の田中達也さん。その作品は二〇一一年から毎日欠かさずSNSで発表され続けています。

今回の『美術資料』の表紙は、もともとは既にある田中さんの作品の中から選ぶことになっていました。しかし『美術資料』を実際にご覧になった田中さんが、新たにインスピレーションを得て、素敵な作品をつくってくださいました。

「今回つくった作品では、美術館の中に飾られている美術品を全て日用品で表現しています。例えば、筆やクリップ、輪ゴム、絵の具など、美術の授業や学校でよく使うものが揃っています」と田中さん。何がどう見立てられているのか、隅々まで鑑賞してみてください。

＊ 田中達也さん

＊ ＊写真提供：田中達也

※『美術資料』は秀学社の商品です。商品についての詳細は秀学社webサイトでご確認いただけます。
秀学社webサイトURL：https://www.shugakusha.co.jp/

はじめに

『形 forme』は広く現代社会の要求に応える美術教育の理論と実践の紹介を目的として一九五六年に創刊されました。以来六〇年を超える長きにわたって、美術教育に寄り添って刊行を続けています。

『形 forme』という書名は造形と人間形成をシンボライズしたものです。子どもたちのための美術教育に取り組んでおられる先生方、美術や造形にかかわるすべての方々、そして保護者の皆様のために、これからも、よりよい美術教育を目指す道標となる内容を目指していきます。

Index No.326

② **特集**
中学校『美術資料』が新しくなりました。
・学びを広げる『美術資料』
・学びを深める『デジタル教材』
・学びを確かめる『ワークシート教材』
⑧ **学習者用デジタル教科書＋教材**
⑨ ABC PICK UP
阿部宏行
⑩ **まず見る**
｜第29回｜ 画面だけをみる　成相 肇
⑫ **生徒作品解説 私の見方**
髙橋憲司

表紙説明

副読本『美術資料』の表紙のビジュアルを制作する田中達也さんの作業風景です。『美術資料』の内容にインスパイアされて制作されたということを、冊子から立ち上るイメージの雲のように表しました。表紙の制作風景を表紙にするとはこれいかに。

アートディレクション：清水 一（東京ピンポン）
編集・ディレクション：山本武義（東京ピンポン）
デ ザ イ ン：東京ピンポン
特集テキスト：西尾真澄（リンカーベル）
表 紙 写 真：田中達也

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。

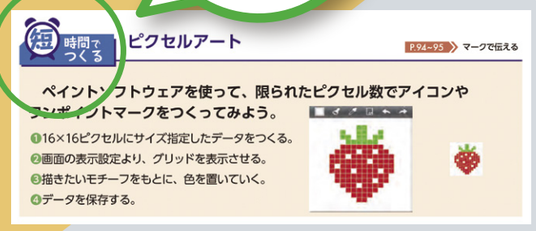
例：｜小｜中｜高｜　特に高等学校に関連の強いコーナーを表します。

時間がない！ そんな時こそ

短時間題材
10題材に増

限られた時間でも
授業の質を高めたい！

限られた時間の中で、学びの質を向上させていくのは大変ですよね。そこで「短時間でつくる」題材を増やしました。ピクセルアートなど、コンピュータを活用する題材も用意。特殊な道具や素材を用意しなくても、すぐに取り組めるアイデアが満載です。



基礎・基本で強力サポート！

基礎・基本
11ページ増

よく活用する
基礎・基本のページを
増やしてほしい！

確かに、基礎・基本のページ=「美のガイダンス」は、色の仕組や道具、技法など、何度でも立ち返って活用するコンテンツですよね。新版ではこの基礎・基本をぐっと充実させて、先生方をさらに強力にサポート。特に授業の導入時、知識の共有をする場面で役立ちます。

学びを 広げる『美術資料』

現場の声を丁寧に拾い集め、
より使いやすく、先生方の
有能なアシスタントとして
機能する資料集を
目指しました！

詳しくはこちら ▶

ICTを積極的に活用！

デジタル活用にも
対応してほしい！

GIGAスクール構想で1人1台端末が配備されています。新版ではQRコードを積極的に活用し、学びを広げています。ICTはもはや欠かせないツール。特に映像メディア表現では、なくてはならない存在ですね。今後も大きく発展していくであろうこの分野。ICTで生徒たちの多様な表現力を引き出してあげてください。

問いかけを大切に

国語の教科書に載っている詩や物語から、
想像を広げ、形や色をイメージしてみよう。

ページ下部に、新たに「問いかけ」を掲載しました。これは「主体的な学び」につながる学びのヒントです。作業の早い生徒へのさらなる課題として、また、教科連携への手がかりとしても役立ててください。

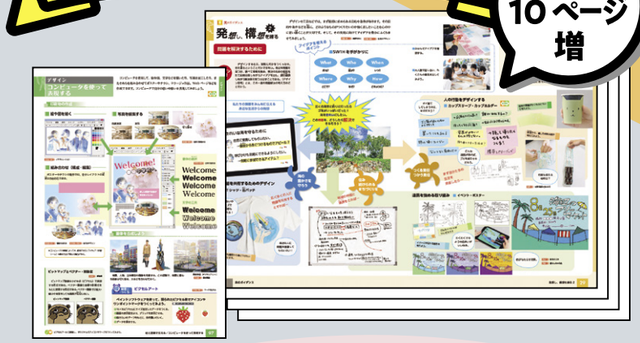
どうぞ隅々まで見てください！

力強い筆のタッチや
繊細な表情を
見せてほしい！

原寸大だからこそ気付く、感じる、考えることってありますよね。新版では「ひまわり」と「阿修羅像」を原寸大で収録。なかなか至近距離で見ることのできない作品を、じっくりと鑑賞することの面白さを伝えてください。

デザイン分野も盛りだくさん！

デザイン分野
10ページ増



かねてより要望の多かったデザイン分野のページを増やしました。身の回りの人工物は全て誰かがデザインしたもの。そう考えると、授業の題材としても、とても身近で扱いやすくなりますね。デザイン思考にも踏み込んでいるので、課題解決型の授業を組み立てやすくなりました。

※この特集に掲載している紙面や画像などは開発中のものです。実際の商品とは異なる場合があります。

学びを 確かめる
『ワークシート教材』

個々の学びの深度を確認できる
ワークシートは、
評価資料にもなります。

詳しくはこちら ▶

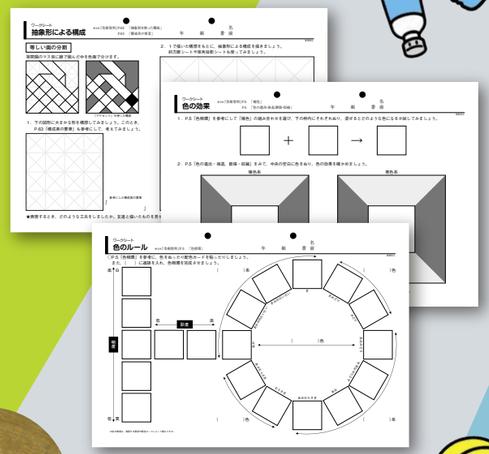
自己評価や自宅学習にも！

授業のまとめに
使いたい！

ワークシートが2枚増えて18枚になり、さらに2穴でファイリングしやすくなりました。授業のまとめにはもちろん、コロナ禍で昨今増えている自宅での学習にも使えるワークシートです。裏面には、生徒の自己評価に使える学習チェック項目を掲載。学習深度の見える化で、生徒自らのやる気にもつながりますね。

紙質も吟味しました

鉛筆も水彩も
描きやすい紙に
してほしい！

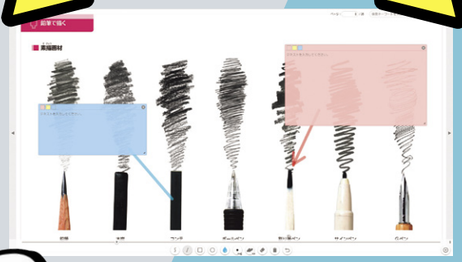


ぺらぺらの上質紙では、水を含ませた途端に無惨なことになってしまいますよね。このワークシートは、筆記適性はもちろん、水彩にも耐える丈夫で厚い紙を使っています。準備の手間なく、すぐ課題に取り組めるスグレモノです。

使えるクリアファイル付き

ワークシートにはオリジナルクリアファイルが付いています。保存に便利なのはもちろん、30cmスケールが印刷されているお役立ちアイテムです。

自分だけの教材に！



「ペン・ふせん機能」で、気付いたことや重要なポイントなどを自分なりに整理できるのもデジタル教材ならではですね。「ふせん一覧」で検索できるのもポイント。学びを深めるごとに、個々にカスタマイズされた教材に育ちます。

現場に寄り添い、今必要とされる美術資料集ができました。これまで長らく愛用されてきたスタンダードという"よさ"に、多くの現場の声をプラスしてアップデートした『美術資料』と『ワークシート教材』、そして今回、新たに学びのシステムに加わった『デジタル教材』。教科書を中心にこの三つを合わせて活用することで生徒たちの学びを広げ、深め、確かめながら、創造の喜びにつなげていきましょう。

横田 学先生

※「美術資料」の見本本は学校出入りの販売代理店までお問い合わせください。

豊富な動画で飽きさせない！

「コンテンツガイド」のアイコンをクリックすると、画面内に様々なアイコンが現れます。たっぷりと用意されたコンテンツで、学びたい部分をどんどん深掘りできるので、生徒たちの好奇心が途切れません。

学びを 深める
『デジタル教材』

NEW

デジタルだからできる！
生徒たちの深掘りしたい
好奇心に応えます。

詳しくはこちら ▶

アイコンで直感的に！

紙の本に付いているQRコードを読み取るのは意外と手間ですよね。このデジタル教材では、気軽に見られるコンテンツをアイコンで表示。見たまま、ストレスなく、直感で操作できます。

デジタルならではの「しかけ」

デジタルの強みを
生かした教材がほしい

例えば「最後の晩餐」の［構図の秘密］をクリックすると、一点透視の線が現れます。ついついクリックしたくなるリンクが様々に張り巡らされているのもデジタル教材の強み。ちなみに［人物たち］をクリックすると、各人物の名前が表示されます。どんな人たちなのか、調べ学習にもつなげられますね。

一人一台端末時代の個別最適な学び、主体的な学びをサポートします！

令和2年度版 図画工作

令和
4年4月
発売予定

学習者用デジタル教科書＋教材

指導者用デジタル教材で人気のコンテンツを、子ども一人ひとりの端末に。
授業内のさまざまなポイントで使えることはもちろん、家庭での自学自習にも役立ちます。
一人ひとりの理解の仕方や活動の進度に寄り添うコンテンツが、図画工作での学びを支えます。

導入で使える

題材に合わせたさまざまな『導入コンテンツ』を収録。ねらいやヒント、活動の流れをいつでも見られるので、子どもが自ら考えながら発想を広げ、活動への意欲を高めることができます。

発想が広がる動画コンテンツ

授業の流れが分かるスライド

ポイント

- 自分のペースで見られるので**活動をより深く理解**できます。
- 繰り返し見ることで、**じっくりと考えて発想を広げられます**。

展開で使える

技能の指導を支える『つくり方、材料・用具使い方』動画を、のべ200本以上収録。題材ページからすぐに必要な動画を見られるので、自分で確認しながら活動できます。

KOMA KOMA×日文

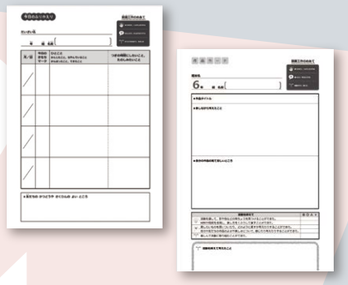
分かりやすい
材料・用具使い方動画

ポイント

- 何度でも確認できるので、一斉指導だけでは分からなかった**使い方もしっかり理解**できます。
- **安全な使い方を示している**ので、一人で見るのにも安心です。

振り返りで使える

学習活動を振り返る『ワークシート』を題材ごとに収録。「今日の振り返りシート」「作品カード」などを活用することで、学びを確認し、確かなものにしていけます。



ワークシートから、主体的に取り組む態度や、作品からだけでは見取りにくい子どもの思いを確かめることもできます。

ポイント

- 次時や次の題材などに向けて、**自分で自分の目標を見付けることができます**。
- ファイルをアーカイブしていくことで、**自分の成長を確かめることができ、学習の意欲につながって**いきます。

体験版はこちら

ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。
ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を
選んでご紹介します。

今回は「造形のABC」p.8をピックアップ！

中学生の表現

中学校の美術は、生涯学習における「美術」の入口です。図画工作は様々な造形体験を行うことを意図して構成されていますが、中学校の美術は、芸術文化に関する知識も含め、将来にわたって美術を愛好する心を育てる教科です。高等学校になると、科目を選択することが多く、子どもによっては中学校が「共通に美術を学ぶ」最後となります。ですから、生徒が美術の喜びを味わい、将来にわたる基礎的な能力を適切に身に付けるような活動を「楽しむ」指導が求められます。美術文化を「知る」、様々な作品を「見て感じる」そして「表す」を「楽しむ」ことです。

この時期の子どもは、蝶になる前の「さなぎ」にたとえられます。大人になるために与えられた「考える時間」なのです。中学生は、体だけ変化するのではなく心も確実に変化しています。周りの人々は温かく見守り、寄り添い「待つ」という営みが大切です。

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。

ABCシリーズのラインナップ

ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。
また、冊子をお送りすることもできます。

著者紹介
阿部宏行（あべ ひろゆき）

1954年生まれ。札幌大学女子短期大学部こども学科教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員（平成29年）、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査（小学校図画工作）」（平成29年）などを歴任。北海道教育大学岩見沢校教授を経て現職。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。

小学校図画工作科教科書

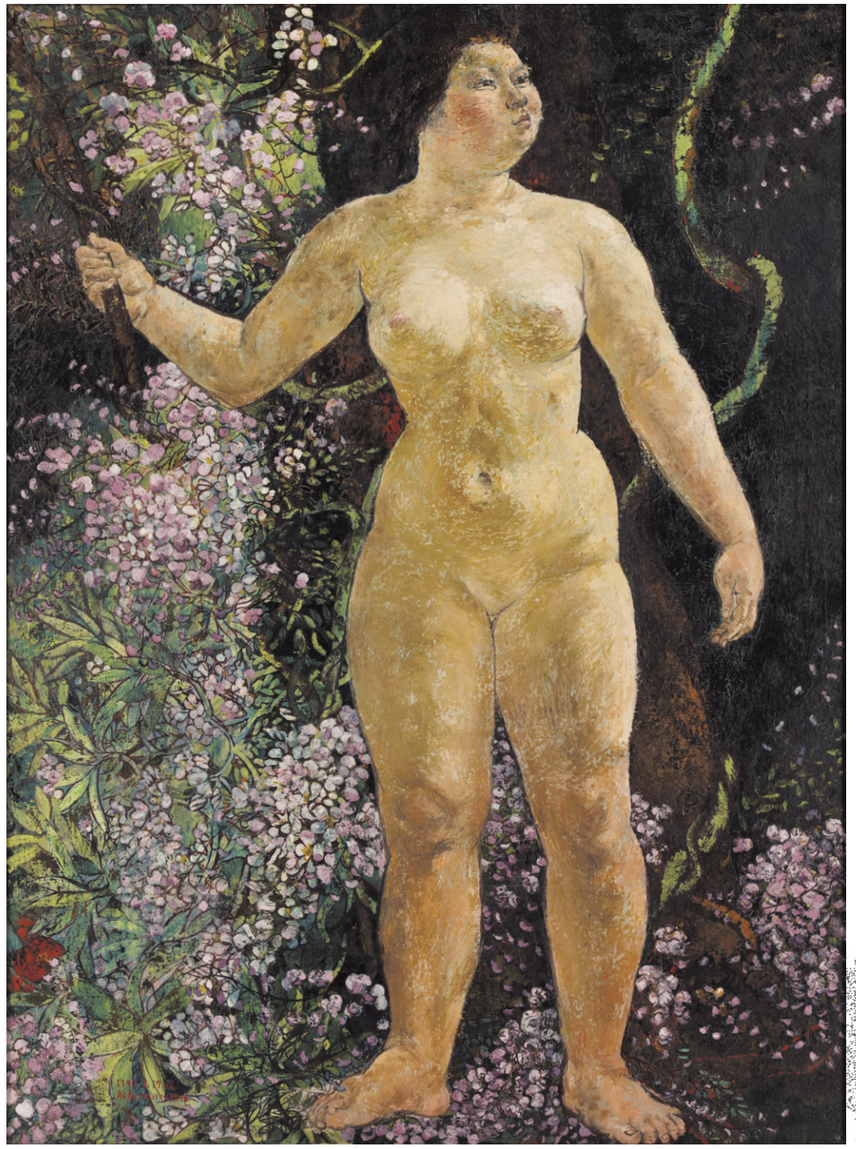
中学校美術科教科書

高等学校芸術科美術教科書

まず見る

第二九回

誰もが知っている作品や、初めて出会うもの。
いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみましょう。
それまで見えなかった作品の一面が、見えてくるかもしれません。



解放され行く人間性

［油彩・キャンバス・額／130×97cm］
1947年 東京国立近代美術館蔵
丸木 俊（まるき とし）［1912～2000］
Photo: MOMAT / DNPartcom

画面だけをみる

高らかな宣言のようなタイトル、一九四七年という敗戦直後かつ日本国憲法施行の年である制作年、作者が女性であること、さらにこの作者が後に「原爆の図」で名を馳せることを知っていればなおさら、この作品になにか勇ましい決意のようなものを受け止める人が多いに違いありません。

しかし仮に、題名や作者名や制作年といった情報が与えられていなかったとしたらどうでしょう。ここではあえて、それらの情報から「解放」されて、画面に描かれていることだけを見ながら（といっても画面左下に題名も制作年も作者名も記されているのですが、それはさておいて）作品を吟味することにトライしてみます。皆さんも読み進む前に、いったんこの絵を眺め返してみてください。

一面の植物に囲まれて堂々と立つ裸婦。頬を染めて光が差す方を見上げる表情はこわばり、両足を外側に向けて立つ姿勢も相まって、やはり勇ましさを感じるのは確かです。ただし表情よりも気になるのは、人物の体だけが絵の具を削り出すように塗られていることで、さらに気がかりなのは背景の扱いです。花弁がこんなに滝のように流れていることって、あるのでしょうか？ 藤の花のようにも見えますが、あっ、もしかしたらこの絵は、もともと左側を上にして描き始めて、後から回転させて裸婦を加えたのかもしれません。少なくとも別々の二つの絵が重ね合わされていることは明らかでしょう。人物の足は宙に浮き、人物と背景では塗り方も光の当たり方も異なっています。まるで、オンライン会議の「バーチャル背景」のように。

そこでようやく合点がいくのが人物の右手のポーズの理由です。木の枝をしっかりと握った手。いや、もっと踏み込んで言えば、彼女は背景を握っているのです。人物と背景を繋ぎ止める命綱となっているこの部分こそが最も興味深い点だと、僕は思います。バラバラに剝がれそうな画面内の二つの層をポーズ一つで接着し、絵として成り立たせようとする作者の技術がこの一点に集中しています。堂々とした、勇ましい、といった印象とは異なる観点がここから拡がっていくはずです。

作者の来歴や歴史的背景など、画面を見るだけでは知ることのできない情報が作品を理解する上で重要であることは言うまでもありません。しかしその情報が強烈なストーリーを誘導するとき、それだけで納得して作品そのものが見落とされてしまう場合が多々あります。画面外の情報を無視するという今回試した方法はやや極端ですが、目の前にある図像の観察が常に発見を生むという当たり前のことを、忘れないようにしたいです。

文

成相 肇 なりあい・はじめ

東京国立近代美術館主任研究員。一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員・東京ステーションギャラリー学芸員を経て、二〇二一年から現職。主な企画展に「石子順造的世界」、「ディスカバー、ディスカバー・ジャパン」、「パロディ、二重の声」など。

〈今号のひと言〉

ずっと使っていた安いイヤホンをふとよく見たら、耳にはめる部分に両方とも「L」と印字されていることに気付きました。特に不都合はないのですが、気付いてしまうと妙な感じがします。この世に同じ商品で両方とも「R」のイヤホンを持っている人がいるのかと夢想しています。

東京国立近代美術館展覧会情報
「没後五〇年 鏑木清方展」
（二〇二二年三月十八日～五月八日）
※予定